

国際教育支援

留学生のリクルーティング

## オーストラリアにおける国際連携を強化 - シドニー・メルボルンを訪問

2025年2月24日から3月4日にかけて、本学の代表団がオーストラリアを訪問しました。2月24日から27日には、大学院教育支援機構の教職員も同行し、ニューサウスウェールズ大学 (UNSW)、メルボルン大学、在シドニー・在メルボルン日本国総領事館を訪問しました。本訪問は、本学の教育・研究活動の国際展開と日豪(印)連携の強化を目的としています。

2月25日には、UNSWで若手研究者交流や学生交流プログラムの可能性について協議し、大学院教育支援機構が実施している短期研究インターンシッププログラム (KU-STAR) のプロモーションを行いました。同日午後には、在シドニー日本国総領事館で、日豪の学術・教育連携について議論しました。2月27日には、メルボルン大学を訪問し、若手研究者交流のさらなる拡大やKU-STARプログラムの今後の展開について協議を行いました。総領事公邸での昼食会では、本学の取り組みを紹介し、日豪間の協力強化について意見交換しました。

本訪問を通じて、本学とオーストラリアの大学との連携強化に向けた重要な手がかりを得ました。今後も研究者・学生交流を促進し、持続的な国際パートナーシップの構築を進めます。



キャリア開発・育成支援

経済支援

## 大学院教育支援機構奨励研究員ポスター発表会・研究交流会 (10月30日、31日、11月29日)

本イベントは、博士課程学生が研究成果を発表し、研究分野を超えて議論することで研究者能力を向上させることを目的としています。

平島崇男 大学院教育支援機構長の激励の挨拶の後、3日間で152名の学生がポスター発表を実施しました。人文・社会、情報・AI、量子、マテリアル、健康・医療・生命、環境・エネルギー・複合など多様な分野が対象となりました。

また、12社の参画企業の博士人材も発表を行い、学生にとって研究やキャリア開発を考える機会となりました。本学総合研究推進本部のリサーチ・アドミニストレーター発表ブース、一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議



会および株式会社アカリクによるインターンシップ相談ブースも設置されました。

3日間で約130名の一般参加者が聴講し、学生、教職員、企業関係者が分野・立場を越えて活発に交流しました。終始賑やかな雰囲気の中で、意見交換が行われました。

Kyoto University  
Division of Graduate Studies  
京都大学大学院教育支援機構

ILAS  
INSTITUTE FOR LIBERAL ARTS AND SCIENCES



https://www.kugd.k.kyoto-u.ac.jp/



https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/



この用紙費用の一部は「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」に寄付されています。  
www.jcv-jp.org



この冊子に使用しているインキは、産業廃棄物として廃棄予定のインキを一部再利用しています。

京都大学  
大学院教育支援機構／国際高等教育院／国際・共通教育推進部

MAR 2025

vol. 10

# News Letter

このニュースレターでは、大学院教育支援機構、国際高等教育院、国際・共通教育推進部に関する最新の活動や取り組みについてお知らせします。

国際教育支援

留学生のリクルーティング

## 「Kyoto University Short-Term Academic Research (KU-STAR) Program」を実施

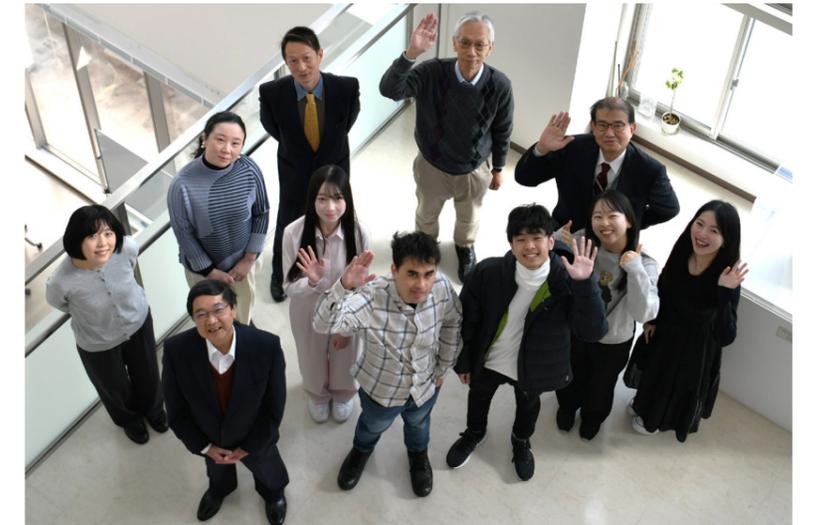
大学院教育支援機構では、大学院留学生の増加を目指して「Kyoto University Short-Term Academic Research (KU-STAR) Program」を実施しています。2024年5月～7月に実施したインドに続き、このたび、オーストラリア・メルボルン大学から4名の優秀な学生を受け入れました。学生は、

2025年1月9日～2月28日のプログラム期間中、自身が選択した研究室(医学研究科、化学研究所、数理解析研究所、総合博物館および理学研究科)において研究スキルを磨くとともに、日本語授業や日本文化体験等に参加しました。

### ●オリエンテーションと

#### キャンパスツアー(1月9日)

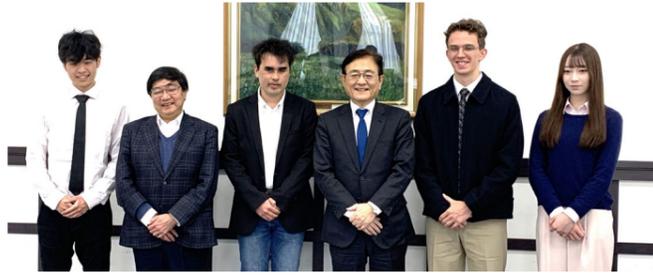
初日は、オリエンテーションとキャンパスツアーを実施しました。平島崇男 大学院教育支援機構長および石川冬木 副学長の激励のメッセージを受け、参加学生は、これから始まる最先端の研究や京都での生活に胸を躍らせていました。また、本学の学生チューター3名のサポートを受けながら親睦を深めました。



### ●日本語学習(1月10日・15日)

Kyoto University International Undergraduate Program (Kyoto iUP) の日本語授業や、国際高等教育院附属国際学術言語教育センターが実施する日本語会話クラブにも参加し、日本語能力向上のヒントを得るとともに、同じく日本語を学ぶ多様な留学生たちとの交友を広げました。

(前ページからの続き)



### ● 湊総長・石川副学長懇談 (1月29日)

研究計画を紹介することを目的に、湊長博 総長および石川副学長と懇談を行いました。4名が研究や今後のキャリアについて発表し、湊総長と石川副学長からも、本プログラムの機会を最大限活用し、研究や学びを深めて欲しいとのエールが送られました。

### ● 北野天満宮訪問 (2月2日)

北野天満宮で、節分祭 北野追儼式を見学し、追儼狂言、日本舞踊、豆まきを観覧しました。その後、本殿の正式参拝や宝物殿の見学、茶道体験を通じて日本文化に触れました。

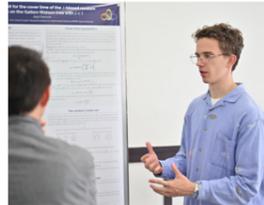


短期間ではあったものの、それぞれ研究室での研究に従事し大きく成長しました。将来、大学院生や研究者として京都大学に戻って来てくれることを期待しています。

5月にはインドより32名を受け入れ、年明けにはオーストラリアの大学を対象に同プログラムを実施予定です。受け入れ研究室を募集しておりますので、ご関心のある先生は大学院教育支援機構までご連絡ください。

### ● 成果発表会 (2月20日)

2月20日の成果発表会では、研究成果をまとめたポスタープレゼンテーションと、プログラム全体での学びや今後の展望に関する口頭発表を行いました。学生は大半がポスタープレゼン未経験でありながら、来場した教員や大学院生に向けて堂々と発表しました。また、研究室で充実した日々を過ごせたことや、日本語でコミュニケーションがとれたこと、将来はアカデミアの道を検討していることなどを話しました。



### 国際教育支援

## 交換留学1次募集 (2026年1月～12月出発) を開始

大学間学生交流協定に基づき、2026年1月～12月に交換留学へ出発する本学学生を募集する2025年度交換留学1次募集を開始しました。

交換留学では、留学先の授業料は不徴収で、約150ある世界中の協定校へ1学期以上1年以内の期間留学し、科目履修や研究指導を受けることができます。

国際教育交流課では、募集に先駆け、本学学生へ積極的に海外留学情報を提供するため、10月2日と3日に「秋の留学のススメ」と題して留学相談会を実施しました。留学経験学生と職員がブース形式で質問対応し、100名を超える学生が参加しました。

今後も様々な留学関連イベントを実施する予定であり、交換留学を含む海外留学を本学学生に促進していきます。



### 留学生のリクルーティング

## 地球環境学堂の協力によりインドネシア向けオンライン留学フェアを開催

2025年2月1日、「Kyoto University Online Study Abroad Fair for Indonesia – Focus on Global Environmental Studies」を開催しました。本イベントは、2024年9月にジャカルタで実施したリクルートイベントのフォローアップとして企画され、地球環境学堂の教員5名の協力により実現しました。インドネシアの優秀な学生に向けて本学および地球環境学舎の魅力を発信しました。

今回のフェアには550名以上が事前登録し、延べ380名が参加するなど、非常に高い関心を集めました。第一部では、アドミッション支援室(AAO)による本学大学院全般の紹介に続き、地球環境学舎のカリキュラムや研究内容を紹介しました。さらに、元留学生による体験談も共有されました。参加者からは「本学での研究に対する関心がさらに高まった」「このようなイベントをぜひ他の分野でも開催してほしい。今後も継続してほしい」との声が多数寄せられ、イベントの意義が改めて確認されました。

また、第二部の個別面談セッションでは、書類選考を通過



した約30名の学生が、教員との貴重な対話の機会を得ました。参加者は事前に入念な準備を行い、熱心に自身の研究計画や留学の展望について議論しました。教員からは「優秀な学生が多く、今後の本学への進学に向けて期待を抱いている」とのコメントが寄せられ、すでに入学に向けた調整が個別に進んでいる学生もいます。

本イベントは、本学が海外の優れた学生を迎え入れ、未来の研究者を育成するための重要な取り組みです。今後も、対面・オンラインの両形式を効果的に活用しながら、意欲ある学生とのつながりを深め、さらなるリクルート活動の充実を図っていきます。

### 国際教育支援

## 2025 アムジェン・スカラーズ・プログラムに485名が応募

世界最大の独立バイオテクノロジー企業であるアムジェン社が設立した財団の支援を受けたサマリーサーチプログラムを2025年も実施します。

このプログラムは理系分野の学部生を対象とし、プログラム参加大学・研究機関において最先端の研究に触れる機会と、次世代を担う科学者となる足がかりを提供することを目的としています。ハーバード大学やケンブリッジ大学をはじめとする世界有数の大学・研究機関が受入先として参加しており、日本では本学と東京大学が実施しています。

2024年から、アムジェン財団の意向により、アジアプログラム(シンガポール国立大学、清華大学、東京大学、本学)で

は、アジアの大学に在籍する学生のみを対象とすることとなり、290名の応募がありました。

2025年のプログラムは2024年11月1日に募集を開始し、2025年2月1日に締め切りましたが、応募は昨年を大きく上回る485名に達しました。中央アジア、南アジアからの出願も増え、当プログラムおよび本学への関心の高まりが顕著です。

今後、学内選考を経て3月末までに最大15名の参加学生を決定します。プログラム期間は2025年6月6日から8月7日までとなります。さらに、8月5日～7日には本学にて、アジアプログラム4校とメルボルン大学による合同シンポジウムを開催します。

